



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

CITATION:

通信. 天界 1931, 11(121): 277-278

ISSUE DATE:

1931-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161659>

RIGHT:

通 信

拜啓四月號天界只今入手致しました。巷頭言はどなたの御發言であるか存じませんが小生も同感です。只其組織や方法等に付いては自分にも潜越ながら多少の考へはありますが、要するに學術用語として使用せらるゝには完全にそれ等の主體を明示し得るものであらねばならぬ事勿論だと思ひます。天文臺の如き最も大いなる命題に付いてさへも専門家の間に於て解釋を異にしてゐる様では迷はされるのは吾々です。百尺竿頭一步を進めて實現の運びに到らん事を切に祈ります。

本月發行の天界を拜見して特に目立つて改められて居る點は觀測欄の削除です、多數會員に何等の交渉と興味を有たしめない觀測欄に對し、冊子の大部分が割愛されて居る事は多くの會員の喜ばない事だと思ひます。

小生の考へとしては將來觀測部を切離して取扱はれる方が望ましく思はれます。觀測部の記錄に付いては隨時ブレンを發行せらるゝのも結構ですが、觀測部員に特報すべき海外の消息や、少々記載の長くなる種類のものに付いては簡易印刷による謄寫版で結構だと思ひます。或はこの種のものゝ方が吾々には親しみ易い感を與へらるゝ事と思ひます（形式化せられず質實本位で總てが目的化されたものを具現する事）。

四月號に登載せられた中村氏の小望遠鏡に關する記事は誠に結構だと思ひます。一般の人からこの種の質問を受くる事も度々であり趣味の研究に入らんとする人々の爲めによい手引になると思ひます。今一つ小生の希望としては小學校理科教材に付いて

の取扱ひだと思ひます。尋常四學年生の理科教科書(信濃教育會編輯)にも大分天文の事が書かれてありますが(先年山本先生外先輩有志の諸君によつて提唱せられた結果だと存ず)これ等に付いての指導者たる教育者が取扱上いろいろ困難を感じる點があるらしく聞いて居りますが、一面社會の要求としても國民の常識として、心得おくべき天文學上の題材に付いて一層の御考慮を煩したいと思ひます(天界が天文教科書でないことは勿論です)。

天文學研究熱の高まつて來る事は誠に喜ばしくありますが或は將來至純な研究的態度を踏み外して趣味の墮落を來しはせぬかを畏れられます。會員中にはこんな間違つた考へを起す人は無からうと思ひますが、専門家以外の素人研究者としてはそれが獨立天文臺であらざる限り自ら其の研究の範圍には限りある事と思ひます。それに對して其限度を超へた設備や備品を有つ事を趣味研究の如く心得て何等活動をもせぬ高價な輸入品を多く有つ事が眞の研究の如くに誤解される時期が到來しはせぬかと思はれます。眞面目に自然科學を研究するものには何等誇張の必要がありません。殊に素人としては専門學的な特別の備品より一般常用型の物に工夫をしてゆく所に多くの興味を覺えます。此點は天文同好會なる名稱からも考へさせらるゝ様に存ぜられます。此外にもいろいろ申述べたい事も澤山ありますが思ひついた二三の事だけ申上げておきます。甚だ亂筆で失禮でありますが宜敷御判讀願ひます。

三月三十日 宮島善一郎

同志社支部だより

■其後の講演會。(イ)十月八日「天體の講演」(ロ)十二月四日「木星の話」(ハ)一月廿九日「エロスの近況」で何れも神學館講堂にて、山本一清先生に願ひました。

■公開觀望會は(イ)十月八日、土星其他(ロ)十月廿二日の土星、ペルセウスの二重星團、白鳥の二重星、アンドロメダ星雲等々、(ハ)十一月廿六日主として月其他(ニ)一月廿八、九、廿の三日間、月、オリオン、双子座、木星等々で其他にも計畫を發表して曇つた爲め中止した事も數回ありました。太陽は一月廿日だけでしたが黒點が出てなくてみんな失望しました。場所はいつも圖書館前です。

■親睦會、男子部は十一月廿六日夜、學生會館にて。女子部は二月廿一日午後幹事宅にて是は數名の卒業會員送別の意味もこめてやりました。卒業記念撮影は十二月五日に圖書館前庭でやりました。これには山本先生も入つて頂いて女專の卒業アルバムに載つてゐます。

■尙十二月六日には京極のキネマクラブへ行つて Paramount talky news reel パラマウントのトーキーニュースで昨年来國であつた金環蝕の光景を見ましたが素敵でしたよ。地上の諸設備。空を見上げる緊張した顔次第に暗くなつて來る地上の景色、金環出現前後の太陽の模様等々天文人のみ感じ得る興奮と感激をもつて見つめました。

■扱て私も海老君のあと八、九年も同志社支部のお世話をして來ましたが近く此地を引き上げて歸國いたします。一人子たる事亦つらい哉でこれからは運送屋兼旅館の若旦那ですから又御ヒイキに願ひます。四月號の「天界」の天象欄にスケッチされてゐる

支部幹事 飯 義 壽

今治港の棧橋附近の景色の丁度中央に私の家の屋根が見えてゐるとは是亦何かの御縁ですね。

■後任幹事は女專の土方仙作氏(會員にして物理學教授)に願ひしたく思つてゐます。其他支部員には學生以外に女專の生徒監兼舍監である荒瀬カツ氏校友會書記である森中貞一氏、同志社の理事である島本徳三郎氏(同氏は昨夏京大の夏期講座の天文學を聞いた程の熱心家にして同好會の評議員です)等々あり、中學の玉松先生は中學の圖書室並にサイエンス會を代表して入會して居られます、尙其他卒業生にして支部員として支部と連絡を持つて居る熱心家に大阪の梅本恒夫(大分貯金が出來たから近々望遠鏡を買ふ由)里村ミツエの諸氏あり。名古屋の吉武エミ氏(東邦瓦斯に勤務・宣傳になるから雑誌は會社へ送つて欲しい)といふ感心な心掛けで本多光雄氏などを入會させた人岡山の大山溫氏(卒業後は「天界」が唯一の友だといふ位田舎に住んでゐるらしい)最後に函館の工キヌ氏です。工さんは亡き降旗さんの親友でしたが函館支部でも作ろうかといふ熱心家で入會早々觀測部員として活動してる齋藤平八郎氏、商業學校の先生である桐田尙作氏、カムチャツカに行つて半年はオーロラに親しんでゐるといふ天野吉郎氏など同志社支部の函館支部や函館出張所は中々有望です。其他學生の中にも熱心家は澤山居ますし是等の支部員とお別れする事は實に悲しく思ひますが、今後は物理學の教授である専門家の幹事が出來ればうれしいと喜んでゐます。尙私も國へ歸れば家の何處かに望遠鏡でもすえ付けて田舎天文家になるつもりです。では支部幹事としての報告は之で終へます。

(一九三一、四、一)